

那賀郡元村々常議持総水説明

明治十三年下半年度概議費より支弁可経費
ヲ豫算スル其額五百貳拾五圓余ヲ要ス此経費タルヤ
同今緊要ノ費達ミテ概子既往ノ実費ト将来ノ安
費參照シ算定スルナリ外金二百六十三圓余田舎一
号如馬地價ヲ枚割ル如キハ長ニ郡後如ヨリ郡達ノ額
ニ以テ目下賦課スル金負ヲ算出スルモノトス之ニ
依テ歳々其費用ノ細目ニ至テハ又自ラ増減ノ
差異ナキ能ハス之則然体ノ要旨トス而テ乙第ニ
号ハ荒廢備米麦高積方ホニ至テハ將來ヲ

量り豫メ不意ノ準備ヲ為スモノナリ其他逐
条説明ニ付テ見ルヘシ

那賀郡元村

昭和五年九月廿二日戸長津田仙之丞

村會議案總休

甲第一号

地價割規則

此金二五四円拾七銭九リ 昭和五年地方税地價割

甲第二号

戸数割規則

此金四拾九円六銭八リ 同上地方税戸数割

甲第三号

此金四拾九円六銭八リ

道路橋梁用要求路及大涌
橋、土、石、費、研、凌

甲第四号

戸長役場経費

此金三十四円九銭五リ 外金拾八円 地方税より支出

甲第五号

村會諸費

地金拾壹圓

乙第一号

流行病豫防費

地金七圓六十錢

乙第二号

凶荒豫備畜積

地金銀七百六拾六石五斗

右

甲第一号

地價割規則

第一条 凡地價割ノ賦課スルハ現存有々税地ニ限

ルモノトス

2

第二条

地價割ハ毎年縣會ノ未郡ノ廉ヨリ

達セラレタル課額ヲ更ニ当地地價ニ配

当ニ各地主ヨリ徴收スルモノトス

第三条

徴收期限ハ採年度ニ同ニ分テ毎四二令

ノ一ヲ徴收ス即チ左ノ如シ

第一期

八月三十一日限リ

第二期

翌年一月三十一日限リ

地價割別表ニ採年度地才稅郡役多ク連ノ課額

一金二百四十四圓五十九錢

此地價ハ五十七百七十七圓四拾六圓割當チ

而内ニ付或該三奉ハリ

但し此終額第一則二則二箇ニ徴収ス

甲第貳号 ヤ数割規則

一第壹条 ヤ数割ハ本籍所ヨリ在位者

ニ徴課ス之ハ徴収スルモノトス

一第貳条 官方知テ備吏任居スモ亦第

一条ニ同シ

一第三條 戸数割ハ毎年郡役所ヨリ定セリ

タル課額ヲ村會決議ヲ以テ合等額ヲ附以徴収ス

一第四條 戸数割徴収額ハ毎年二回ニ分テ

9

毎回ニ分テ徴収ス即チ元之如シ

第 三 章 ハ月三ナリ限リ

第 一 條 毎年一月三ナリ限リ

中數割ハ可決スル年度地方税郡役所ヨリ定テ課額

一金四ナリ限リ

此戸數ハ毎年一戸ニ割テ一ナリ限リ

此額第一則第二則ニ同ニ徴収ス

甲第三號

一金七ナリ限リ 道路橋梁用至ル徴収課費

[illegible]

此等之字，乃為余

世排石別地廣五頃如

但、反駁するに、月三に於て、四
地可同、自亦要、甲、の、
但、自、之、方、常、初、日、乃、有、
金、十、二、ト、受、候、ニ、是、出、ス

公室
萬家之寶
排不濁流
衣小池也
王議費

但解在二年正月永濟府堤切至後之河少池修繕費用
諸人之數、由地方之池方稅之不元、之故、
系、予、所、之、田、之、月、日、年、

右款明

四三等爲新之役、本爲之元之慮、從前及
由一般地價、至角之低、至孔之微、至毛之小、衡收額
以十年、同偏少之量、而爲之、所、通、或六、分
通、少金、而價之、之、所、安、年、縣、會、以、爲、
少、其、課、額、之、率、之、地、價、少、而、之、金、之、地、
少、之、毛、而、少、之、地、力、之、少、之、以、之、年、之、

考ね願ふは僅々山歩通了案、下巻之マリ
 國學法年度工費多し十年度に比し最大ナル
 如斯之し由土名費徴収額ヲ減し地方振興
 費、賜したんや必すナリ而して本年八月本報甲申
 而甲申年之四三考、爲所工出費管内一般
 ヲ徴収ス、懐行ヲ行ハシ、方以十二年度ヲ豫計
 本費、主所出又、市月方限、懐議ス、施方スヘ
 キ云、公力大ナル就、以十二年度、松樹川堤
 工費、諸費、若菜川堤、市増、神田、出費
 ヲ、如、以、年、懐議、方、懸、リ、サ、ル、云、フ、咳、サ、ン、ニ

一、自、序、ヲ、將、來、重、リ、考、テ、本、年、ノ、工、費、ヲ、方、以
 石、子、ノ、議、定、ヲ、ラ、シ、テ、フ

甲申四年

一金、折、シ、テ、云、ル

本、會、修、修、員

多、シ、テ、工、口、折、新、議、多、シ、テ、方、以、
 世、人、多、ク、折、シ、テ、在、方、方、折、シ、テ、新、議、
 折、新、別、修、通、常、お、云、ノ、外、ハ、長
 子、持、修、折、折、折、折、折、折、折、折、折、折

會計

第一拉豪尔拉古尔

內金六系

小位探利村歩力之号重开也須
行下至平田之柳林六ヶ
月分

金抄本

此等拙書當四原五化之難貴

冬獨方長得經費彊義以信且實

黃子事學，聖之居。

丁巳 龍 乙卯 年 癸亥 丙子 月 壬辰 日 庚申 時

得子本報甲子年正月廿一日

五報黃支額則改以每字五平

...

平 拾 三 十 六 聯 全 戶 方 邑 欠

發覺及於五所，每處於錢九數，五園，并案以不

ハ
安ッ
テ
務
ム
ル
ニ
由
ル
之
ヲ
必
ズ
モ
不
レ

卷之八

今之所
ハハカ
教
二

卷之六 自述 仙五 一 元

子以今利
挂費
死
家
陳
手
持

以子之礼

5

義高

聖如紅少多標費人

卷之八

明治三十二年八月廿五日

軍部

新編

八人よりなる下月金四百五十元、別

金六百五十元

少佐

此金より八月金四百五十元、別

生ハ金に於て

新編

但筆は筆を新編に代換する

外金よりなる金

大都府

但所は十二年金、係文部省、名山寺

7

補金、十二年、按主、新編、人、金、別、
海軍、金、別、十二年、按主、新編、人、金、別、
補、金、別、十二年、按主、新編、人、金、別、

明治三十二年八月廿五日、
軍部、新編、八人よりなる下月金四百五十元、別、
金六百五十元、少佐、此金より八月金四百五十元、別、
生ハ金に於て、新編、但筆は筆を新編に代換する、
外金よりなる金、大都府、但所は十二年金、係文部省、名山寺、
補金、十二年、按主、新編、人、金、別、海軍、金、別、十二年、按主、新編、人、金、別、
補、金、別、十二年、按主、新編、人、金、別、

佐ハ将年宝貴ヲ兩量シ以テ學政員金保存維
持方恒ヲ厚ク藏定シ公立小寺ヲシテ怨人氏ノ
公モアリコトヲ案部ス

乙卯正月号諸同議案

一 金七条六枚鐵 流ハ初海防費使墨

の

金五条 用意人金繫給

共人金以在そ人金以在そ

但惡夜初海防費使墨者王除衛生要事後人

夫、折廻し而無難と花及吐海初海防費使墨
恒事ありてあり

金五条六枚鐵 掃除費海防

但毎一日一、五、十、二十、三十、四十、五十、六十、七十、八十、九十、百、掃除。

除衛生要事止日ありて掃除費あり

崇めテ

金五条 掃除費海防

州人金五条一ヶ年手有給

左海防費海防費使墨者王除衛生要事後人

第ニ在沙号公市常刊利利高海防費使墨

う次オモミイ事々名月守々て居テ危
キヲ忘レガリハ事々人主緊要ノ事ハ勿レシテ
目ハ不可欺事々事々在将来凶年ハ餘部
内人モテシテ飢饉ハツキイラミガハ将来凶年
飢年ノ餘部有テ一ツ有テ以テ古ニ誤同
議案ヲ々々記ス

凶荒豫備米麦高積額

米合七五六石六斗

此人多クも泊チム人 元村人々

但老以男昔年泊一日ノ多利詳云云乳

此寺ノ年三三三斗五斗男ノ多利

此寺ノ年積集額

米合拾五石五斗五合

内米六石八斗五合五斗 毎斗五斗ハ餘部有テ

此破集額

米合五斗五斗五合五斗 此破額

此破額ノ石斗五斗五合五斗 此破額

此の石斗五斗

此三石四斗五斗五合五斗 此破額

此破額ノ石斗五斗五合五斗 此破額

位万事及等外机千極多者ハハ底多保ハ
 三石四升全少考 年考校ハ得
 位陸軍軍需部大務局長兼事務局長
 國史以解付下
 乙未年正月二十日 飛鳥井三郎 明正親王
 年考校ハ年考校ハ年考校ハ年考校ハ年考校ハ
 十歳ハ歳考校ハ年考校ハ年考校ハ年考校ハ
 位万事及等外机千極多者ハハ底多保ハ